

第10回日本救急艇協議会会議議事録(案)
第10回日本救急艇社会実装協議会議事録(案)

日時:2021年5月22日(土)18時30分～

場所:Web会議

予定参加者(順不同、以下敬称略):

砂田 向壺(MHI理事長)
有賀 徹(MHI理事、独立行政法人労働者健康安全機構理事長)
奥寺 敬(富山大学)
三宅 康史(帝京大学)
田中 秀治(国土館大学)
山口 芳裕(杏林大学)
加藤 聡一郎(杏林大学)
弘重 壽一(昭和大学江東豊洲病院)
横田 裕行(日本体育大学)
横堀 将司(日本医科大学)
前田 透(東京消防庁救急部副参事、救急対策担当)

オブザーバー

MHI理事の皆様:小池・宮川(船長)
JESA植田

議題

1. 前回議事録確認

横田委員長より、前回、第9回会議の議事録確認がなされた。この中で前回、砂田理事長に確認すべきものとされた内容や、それぞれの分担の進捗状況などを改めて確認した。

これに付して、砂田理事長より、7月23日から8月8日までを第一期運航期間、8月24日から9月5日を第二期運航期間とすることが明確にされた。また前田副参事とも情報を共有し、委員全員がオリンピック・パラリンピック開催日程に沿った活動日程を改めて確認した。併せて、7月23日の開会式の前にはサッカーの試合が既に開催されているが、バイエリアでの競技がないことも確認された。

大塚製薬からのOS-1の支援に関して、MHIが寄付を受ける形で進めることができるとの見解であったが、山口委員から、MHIとの契約という形で進められるか、大塚製薬に検討を依頼することとなった。フジタ医科機器からの医療機器の貸与に関しては、借用書という形でMHIとのやり取りで管理していることが明らかになった。なお、期間中の保管場所は昭和大学江東豊洲病院であることを確認した。

山口委員より、医療資機材の機器破損時等の対応についても確実にするように依頼があった。有賀理事より、AED、生体情報モニター、吸引器、酸素ボンベ流量計、自動血圧計、パルスオキシメータ、バッテリー、シートベルトなどの医療資機材、備品とそのメーカーが紹介された。

砂田理事長から、フクダ電子の生体情報モニターのみが損害保険の対象となり、損保ジャパンと既に契約したことが報告された。なお、他の医療資機材に関しては保険の対象にならないことから破損等を起こさぬよう使用することとなった。

奥寺委員からの意見として、本実証の取り組みを医師主導研究のような形の研究として進めることの有用性が提起された。

2. 各分担からの進捗報告と予定

1) 救急艇について

横田委員長より、プレスリリース用チラシの曜日記載が誤っていることが指摘された。
砂田理事長より、現在の準備状況について、公園管理者に江東区より使用願を出し受理されたこと、テントの設営時間が5月26日水曜日10時からであることが示された。ユニフォームの準備などを考えると、12時に集合が望ましいとの見解が示された。お披露目会については、同会には有賀MHI理事が行い、以下の順序と分担となった。

(以下敬称略)

- ①経緯説明: 砂田
- ②ミッションステートメント説明: 横田
- ③実装に向けての準備経緯: 横田
- ④医療機関への受け入れ: 弘重
- ⑤医師の関わり: 三宅・坂本
- ⑥救命士の関わり: 田中
- ⑦救急艇搬送を想定した訓練説明: 山口
- ⑧ユニフォーム説明: ユニクロ(13:40)
- ⑨訓練実施: 山口

奥寺委員より、ユニクロは商用使用の撮影をすることも想定されるため、当初の予定時間(13:40)を変更しないほうが良いのではないかとの意見があった。また、山口委員からも、訓練実施はテントからの出動を想定しているとの意見があった。皆で議論の上、上記のような順序と時間になった。

2) 医師の確保(所属を含め)について

三宅医師より、医師の分担について、前半17日間(オリンピック期間)、後半13日(パラリンピック期間)、合計30日間を山口、坂本、横堀各グループで三等分し、各10日ずつ担当とすること、また、分担はその中で決めていただくことを考慮していることが示され、皆の賛成を得た。

各分担グループは全部で医師6名(うち補助要員1名)として訓練日を減らすことが可能となったと明らかにされた。

3) 救急救命士の確保について

田中委員、植田先生から、救急救命士インストラクタートレーニングの詳細について明確にされ、現在登録がある必要とされる人員14名全員が受講できるようになるプランが示された。想定として、救命士一人当たり2-3日の勤務であり、日程準備が整っていることが示された。予定している訓練日に救急救命士の枠が埋まらない日もあり、日本体育大学を含め救急救命士のさらなる確保に努めることが報告された。

4) 訓練について

山口委員、加藤委員より報告がなされた。上述の如くトレーニング日程が6日から5日に短縮されることが報告された。訓練日として6月の2日間と7月20、21、22の3日間とで訓練を行うこととなった。宮川船長もトレーニング日程を確認した。

また、5月19日の訓練についての報告があった。医師、東京消防庁、救急救命士が参加し、検証を行った。有明テニスの森、および青海アーバンスポーツパークで発生した想定事案、計2パターンで、救急艇を要請してもらう前段から、病院収容までを想定した訓練であり、想定した時間通りであった(出動要請から昭和大江東豊洲病院救急外来への搬入まで、およ

そ45分)。引き継ぎの栈橋で、救急艇側、または東京消防庁側、どちらかが長時間の待機となることもなかったことが報告された。

横田委員長より、雨天など天候の影響はいかほどであったかとの質問があった。これに対し加藤委員より、傷病者もずぶぬれとなり、雨が降ると厳しい状況であったことが報告された。山口委員からも、雨の時には傷病者の搬送には適さないことが示された。また運航判断については、責任者は船長であるが、東京消防庁と連携しつつ風、天候、波などの状況を鑑みて運航を判断すべきという意見が示された。

東京消防庁前田副参事からも運航基準を決め、次回会議の中で明らかにするという意見があった。例えば、東京消防庁の消防艇の運航判断基準(風速8m未満、波高0.5m未満、視認200m以上など)を船長と共有し、要請の条件を決めるとの意見があった。

奥寺委員より、ドクターヘリの機長判断が絶対であるように、救急艇では船長の判断が最終であると明記していただきたいとの意見があった。

田中委員より、今後の活動について、救急救命士は医師の指示で活動すること、また、メディカルコントロールの観点から、記録表や事後検証書類など次回までに準備するとの発言があった。

2. MHI 10周年記念行事について

砂田理事長からの情報として、緊急事態宣言が6月20日まで延長となった場合、MHI記念行事に議員は出席できないため、6月16日開催の予定を延期せざるを得ないだろうとの見解が示された。

3. 日本海洋医学会について

奥寺委員より海洋医療学会は、大阪万博が次のターゲットであると考えており、関西の関係者を将来的に、発起人になって頂く必要があろうという意見であった。富山大学若杉先生にも事務局として次回以降ご参加いただくこととなった。

4. その他

有賀理事より、写真や動画などMHIが準備したカメラマンの撮影物も共有することが可能かとの質問があったが、砂田理事より、HPにアップしたものは委員で共有可能であり、各施設が広報的に使用することも可能という見解が示された。また、横田委員長より、個人が撮影した撮影物について、学生教育への使用可否に関する質問がなされ、砂田理事より、これも使用を可能とすることとされた。

奥寺委員より、アカデミックパーパスと商用目的をしっかりと分けることが必要であり、学術研究の枠組みにすることで上記の対応がより容易になるとの意見があった。砂田理事より、プロダクト使用の際は出典を記載することの重要性が強調された。

砂田理事長より、ユニクロ担当者は午前10時ごろに会場に来場するため、その際にお披露目会の会次第も説明する必要があるとの意見があった。

山口委員より、お披露目会のデモンストレーションは関係者に時間に厳密に協力を仰いでいるため、開始時間14時を確実にしていただきたいとの意見があった。

また、はしけまで迎えに来る病院職員のための救命胴衣を準備してほしいとの意見があった。

横田委員より、資料など準備のために、出席者人数、名簿を把握したいとの旨希望があった。また、参加者に本協議会のミッションステートメントを説明するために、参加者の人数分の用意の希望が述べられ、砂田理事長が準備をすることで了解を頂いた。

次回、第11回会議は6月12日(土)19時からとなった。

文責:横堀・横田・有賀